

ビバハウス便り NO. 93 9月1日・ビバ創設13周年を迎える

2013年9月1日 ビバハウス 責任者 安達 俊子

8月末、茨城のビバ卒業生のお母さんから大きな宅急便が届いた。うれしくてすぐに開けてみてびっくり。もち米とお赤飯の素のほかすぐに役立つ食材がどっさり！9月1日のビバハウスの創設記念日に合わせて送って下さったのだ。

この3月から、約1年半ぶりに登町で本来のビバハウスの活動を再開したため、この半年というものは、多くの新メンバーも迎え、(現在男女ともに満室)、新体制での毎日であったため、お赤飯の材料を頂くまで、正直なところ私自身の意識の中にも創設記念日ははっきりしていなかった。それだけに宅急便を開けずっしりと重たいもち米を胸に抱えた時には、ビバハウスに寄せてくださる思いの深さに思わず涙がこぼれてしまった。

14回目の9月1日を迎え、私が35年間の北星余市高での仕事、夫が20年間の日本共産党余市町町会議員の仕事を、夫々からだの変調により止めなければならぬ中で、北星高校のひとりの卒業生の訴えに応えて始めざるを得なかったビバハウスのため、こんなに長く続いていることに一番びっくりしているのは、私たち自身かもしれない。

しかしこの1両年の私の体の状態は、必ずしも樂觀できるものではない。幸い良い整体の先生に出会ったお陰で、毎週の治療で、改善には向かっているが、過去の交通事故(タクシーに乗っていて追突された)の後遺症か、脊椎に異常があり、毎朝30分近く時間をかけなければ、正常な歩行ができない。現在98歳の母より先に腰が曲がってしまうかもしれないと案じている。

夫はこの春ほぼ30数年ぶりに帯状疱疹(ヘルペス)にかかり、水ぶくれの腫れ方があまりひどいので、本人はなんでもないとしていたが、私がしつこく勧め、お隣の仁木町森内科・胃腸科医院でエコーを取ったところ、左腎臓に約5センチの癌が発見された。幸いに札幌の大きな実績豊かな病院で、わずか5日の入院で、左腎臓を全摘する根治療法を受け、現在体重も約15キロ減少し、これまで穿けなかったズボンをはき、血圧も下がったと喜んで、昔と同じようにお酒も欠かさない。痛いヘルペスのお陰で、全く分からなかった癌が偶然発見され、命拾いをした。まさに人生万事「塞翁が馬」を絵に書いたようで本当にびっくりしたり、まだ神様は私たちがビバハウスを止めることを許しては下さらないのかとも思っている。

そういえば、最近特にビバ卒業生たちからの相談、訪問が多くなっている。彼らのためにもできるだけ長く、「避難港」の役割も果たさなければならない。HPのアクセス数(現在9万3千)の上昇に比例するように、連日全国からの相談と訪問を受けている。若者をめぐる状況はますます深刻化している。